グラフ野田No.47 ■編集／野田市企画財政部秘書広報課 ■発行／野田市 〒278-8550 千葉県野田市鶴奉7番地の1 ☎04(7125)1111(代表) ■発行／平成26年 ■制作協力／油鉄印刷株式会社

句歌で巡る 野田 ⑲

渋沢　秀雄

しぶさわ　ひでお

渋沢秀雄（1892～1984）

明治の実業家・渋沢栄一の4男。卒業後、田園都市株式会社に入社。大正8（1919）年には、欧米の住宅事情を視察し、田園調布（東京都大田区）の開発に携わり、その後同社取締役となります。田園都市調査のため世界を一周するなど、田園都市づくりに尽力されました。田園調布の放射状の道路は、渋沢秀雄がパリで見た凱旋門を参考に設計に取り入れたと言われています。同社が目黒蒲田電鉄（現在の東京急行電鉄）に吸収合併された後は、昭和13（1938）年から東京宝塚劇場会長、東宝取締役会長などを務めます。この間宝塚歌劇団を率いてアメリカ興業を実施。また、多くの企業の取締役や監査役を務めました。

戦後は一転し、実業界から離れ文筆活動に専念し、明治の粋人として、随筆、俳句、油絵、三味線、長唄、小唄と、風流三昧の人生を歩まれました。なかでも随筆家としては軽妙洒脱な筆致で知られ、“現代の兼好法師”との評もあるほどでした。

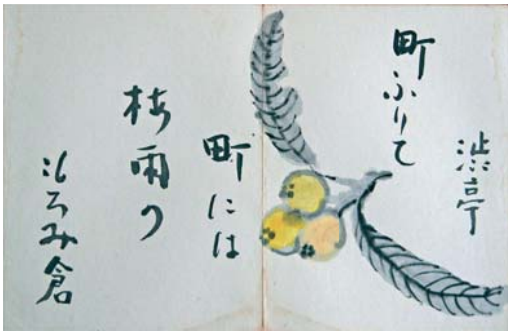
俳句は昭和11（1936）年から、久保田万太郎主宰の「いとう句会」の同人となり作句していました。俳号は渋亭です。

昭和24年4月にいとう句会の吟行があり、野田市に来訪されました。「当時、俳人の高梨花人氏が野田で主宰する花俳句と、久保田万太郎氏が東京で主宰するいとう句会の吟行が野田でありました。父（櫻田精一画伯）の師である小絲源太郎画伯の紹介で、父が交流の仲を取り持ったようです」と当時のことを振り返るのは、長女・久美画伯。

「渋沢さんは、絵もお描きになられ、昭和54年に画集を出版されましたが、父はその編集委員を頼まれて、渋沢さんをいろいろサポートしたりしていました。渋沢さんは趣味が豊かでいらして、粋な紳士で素敵な方でしたね」と当時のことを話していました。

主な著書には、「父渋沢栄一」「明治は遠く」「明治を耕した話」「明治の読本」「父の日記など」「筆のすさび」などがあります。（文中敬称略）

【取材協力】櫻田久美氏
【肖像写真】渋沢史料館所蔵

明治25（1892）年　10月5日、東京府（現在の東京都）兜町に生まれる
大正7（1918）年　東京帝国大学（現在の東京大学）法学部仏法科卒業
大正9（1920）年　田園都市株式会社に取締役として入社
昭和3（1928）年　目黒蒲田電鉄（現在の東京急行電鉄）監査役
昭和21（1946）年　GHQによるG項追放のため、公職を辞任
昭和24（1949）年　いとう句会の吟行で、野田を訪れる
昭和48（1973）年　松坂屋で絵画個人展を開催。これ以降毎年松坂屋で開催
昭和59（1984）年　2月15日、91歳で永眠

町ふりて町には梅雨のもろみ倉